

# 架け橋で結ばれた子どもたちの交流



△24日、公民館で開催されたクリスマスパーティーでは、ゲームで大盛り上がり。

昨年12月23日（金）から26日（月）まで、鶴の架け橋交流事業「さつま&つるた・にぎりまんま塾2016」が鶴田町で開催され、鹿児島県さつま町から児童や生徒20人が来町しました。さつま町の子供たちは滞在中、ホームステイやさまざまな体験を通して当町の子どもたちとの交流を深めました。

鹿児島県さつま町との交流は、同町が合併前の旧鶴田町時代にさかのぼり、現在のさつま町となつてからも、平成22年に友好交流協定を締結し、両町の活性化を目指し、幅広い分野で交流を展開してきました。

今回の交流もその一環として行われており、子どもたちが交流を通して、互いの文化や習慣の違いを理解し合い、幅広い視野と寛大な心を育むことを目的としています。

23日に行われた歓迎式では、さつま町から訪れた児童や生徒を大きな拍手と五ツ太鼓の演奏で歓迎しました。

訪問団代表の山迫捺稀（なつき）さんは「青森での体験学習を楽しみにしてきました。活動を通して皆

さんと協力し、互いの文化を学び、この交流をすばらしい思い出にしたいです」とあいさつ。同行した東修一（あきひさ）さま町教育長は「青少年の交流は本場に大事なことであり、両町長の熱意があつて実現できていることだと思えます。鶴田町の文化や自然を勉強し、今後も交流を重ねていきたいです」と述べました。

滞在中は、雪国ならではのスキーをはじめ、ねぶた囃子や津軽三味線、つるた焼きの絵付けなどを体験。24日には、クリスマスパーティーを開催し、子どもたちみんなで握ったおにぎりや料理を囲み、津軽弁の人形芝居やゲームをしながら楽しく交流しました。

長年続く子どもたちの交流は回を重ねるごとに、両町の絆を深めています。遠く離れた土地の文化や習慣に触れることは、子どもたちの人生に少なからず良い影響を与えてくれるはず。今回、参加した子どもたちがこの交流から学び、感じ取ったことを自らの人生に活かして、またひとつ大きく成長していくことを願います。

## 滞在中は同世代の子どもたちの家にホームステイ



△佐藤 香さん一家



△川村 羽美さん一家



△伊藤 寿紀くん一家

# 鶴田町では たくさんの思い出を作りました。

さつま町の子もたちにインタビュー



佐志小学校5年  
やました ひなの  
山下 陽暖 さん

## つるた焼きの絵付け に挑戦しました

つるた焼きの絵付けに初めて挑戦しました。絵がぐちゃぐちゃにならないように気を付けました。どういう模様がいか悩みましたが、きれいな水玉模様を描けて良かったです。交流の記念になるので、出来上がりが楽しみです。



△つるた焼きの絵付けでは、思い思いの模様を描きました。



中津川小学校5年  
たしま ひなた  
田島 暖大 くん

## さつま町と鶴田町の 交流の深さを実感

青森に来たのは今回が初めてです。さつま町と鶴田町との間にこのような交流があることは今まで知りませんでした。青森の友達と遊ぶことができて嬉しいです。これからも2つの町の交流が深まってほしいです。



△雪国ならではのスキーを楽しみました。



鶴田小学校5年  
なかぞの だいき  
中園 大貴 くん

## みんなで握った おにぎりはおいしい

おにぎりは今まで何回か握ったことはありますが、今回の「さつま&つるた・にぎりまんま塾」で、鶴田町のみんなと一緒に握ったおにぎりは特別おいしいです。ホームステイした家のごはんもおいしかったです。



△ねぶた囃子の体験では、太鼓や鉦の演奏に挑戦。



柏原小学校6年  
はしのくち もえ  
橋之口 萌絵 さん

## 鶴田町の皆さんの 優しさに感動です

鹿児島県では雪がほとんど降らないので、スキーの体験が一番の思い出でした。初めて遠い所に来て、知らない人と交流するのは不安でしたが、鶴田町の皆さんは優しく接してくれました。また、鶴田町に遊びに来たいです。



△津軽三味線を手に取り、音出しを体験しました。



△今回の交流事業では、独立行政法人国立青少年教育振興機構が実施している「子どもゆめ基金助成事業」を活用しました。